



REAL RACING

日程：2016年8月20日(土)～8月21日(日)

会場：ツインリンクもてぎ

天候：晴れ

コースコンディション：ドライ

気温：33℃（15時00分時点）

路面温度：40℃（15時00分時点）

来場人数：20日(土)12,000人 21日(日)16,500人

栃木県 ツインリンクもてぎで2016全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第4戦が開催された。また、同日、同会場にてEnjoy Honda 2016も開催され、会場にはたくさんのHondaファンが詰めかけた。

8月20日(土)台風10号の影響で荒れた天候が予想された予選日。午前中のフリー走行はセッション前に降った雨により、ウェットコンディションでスタート。その後も雨が断続的に降ったりやんだりを繰り返すフリー走行は、今大会に向けて、横浜ゴムが新たなウェットタイヤのスペックを投入したため、午後の予選に向けたタイヤを確認するための、重要なセッションとなった。

午後は急激に天候が回復。予選を迎える頃には、コース上はドライコンディションとなった。予選開始時刻14時10分、リアルレーシングの#10塚越広大と#11伊沢拓也の2台はミディアムのスリックタイヤを装着し、マシンのフィーリングを確認した。2台は一度マシンをピットに戻し、セッティングの微調整と、今大会新規投入されたソフトタイヤに変更し、再度マシンをコースに戻す。Q1突破に向けて、積極的なアタックを魅せた2台。その結果、#10塚越は1'34.568というタイムでQ1を突破。#11伊沢は1'34.760で悔しくも18番手タイムとなり、Q1敗退となった。

14時40分、Q1から10分間のインターバルを経て、7分間のQ2が開始。Q1を14位で終えた#10塚越は、Q3進出を目指し、気持ちも新たにチームと共にQ2に臨んだ。1周のウォームアップラップを経て、2周目にアタックラップに入った塚越は、1'34.021というベストタイムを叩き出すも、結果12位となり、残念ながらQ3への進出は叶わず、翌日のスターティンググリッドを決めることとなった。



REAL RACING

21日(日)決勝日。前日と同様の不安定な天候が予想されたが、予想に反し、朝から好天に恵まれ、夏日となったツインリンクもてぎのコース。

15時にフォーメーションラップがスタート。今回はミディアムとソフト、両スペックのタイヤを使用しなければならないルールとなり、タイヤ戦略が重要視されるレースとなる。コースコンディションは気温33℃、路面温度40℃。シグナルがブラックアウトすると、52周250キロのレースがスタートした。リアルレーシングの2台は、#10塚越がミディアムタイヤ、#11伊沢がソフトタイヤを装着しスタート。スタートから素晴らしいドライビングを魅せる2台は、5周目には塚越が9番手を走行、伊沢は8周目に16番手を走行し、着実にポジションアップ。レースが12周を終える頃、リアルレーシングはピット作業の準備に入る。13周目の終わり、#10塚越がピットイン。タイヤをミディアムタイヤからソフトタイヤに交換する。そして後半の追い上げを図るべく、塚越は再度マシンをコースに戻した。一方ソフトタイヤでスタートした伊沢は、ペースもよく、ミディアムタイヤで走行する前車を追い上げ、抜き去るべく、果敢な走行を続けていた。前車よりペースは良いものの、オーバーテイクが難しいこのツインリンクもてぎ。なかなかオーバーテイクすることができず、32周を終えたところで規定のピット作業に入る。塚越とは逆となるソフトからミディアムタイヤへの交換を行い、伊沢は15番手でマシンをコースに戻した。

全マシンがピット作業を終えた39周目、#10塚越は12番手、マシントラブルにより1台のマシンがリタイヤし、#11伊沢は14番手を走行する。

その後も一つでも上のポジションを目指しひたすらに果敢な走行を続けた塚越と伊沢だったが、そのまま52周を走り切り、チェッカーを受けた。

9月10日(土)～11日(日)に開催される第5戦は、4月に発生した平成28年熊本地震の影響で中止となったオートポリスサーキットの代わりに岡山国際サーキットで開催されます。岡山国際サーキットは、今シーズン第2戦で予選上位、塚越、伊沢2台そろって表彰台を獲得したサーキットとなります。

再度、皆さまに予選、決勝共に魅せる走りをご覧になっていただくべく、チーム一丸となって戦って参りますので、ご声援をよろしくお願いいたします。